

熊本地震から2か月を経て

ルーテル学院中学・高校 校長 林田 博文

未だ、余震が続き不安なおとしの方が多くおられることと思います。地震発生からやがて2か月、ルーテル学院が授業を再開して1か月余りが経過しようとしています。

さて、現在の学院の様子は、結論から端的に申しますと、「5月10日から授業を再開し、子どもたちの笑顔と笑い声が戻りました。復旧・復興の工事の中で多少の不便さはありますが、元気に明るくルーテルらしく学院生活を送っています。」と言えます。ここで、この2か月間のふり返りなどを報告させていただきます。



4月16日の本震で崩落した本館シンボルマークの2本の煙突

上の写真は、熊本地震発生直後の本館の被災状況です。

熊本地震、2度にわたる震度7以上の影響で本館を中心に大きな被害がありました。卒業生の方々が愛してやまない本館は大きな傷を負いながらも華麗に、存在感を増しつつまっすぐに建っていました。

九州女学院時代から、本館シンボルマークの“2本の煙突”が、2度目の地震でロータリーに崩落しました。煉瓦でつくられた煙突は、落下の衝撃で煉瓦が飛散しました。もし、生徒がいる時刻に地震が発生していたらと想像するだけで恐ろしくなります。神様が時を選んでくださったのだと胸をなでおろしました。

礼拝堂、4階部分に大きな被害がありました。また、教室や廊下・天井のいたるところに亀裂と剥離が起きました。蛍光灯の緩み、クーラーのゆがみ、ロッカー・靴箱の転倒、物の散乱はいたるところにあり、授業再開に向けた準備のことを考えると重たい気分になったことを今でもしっかりと記憶しています。

体育館やプールの被害もありました。礼拝堂の被害が大きく使用できない状況、どうにか体育館だけはすぐに使用できないかと期待を持って現場に足を運びましたが、ブレスを留めているボルトが折れて飛んでいました。そこで、早急に体育館の修理をお願いしました。その理由は、“全校生徒が集い思いを一つにする場所”として、高校総体に向けた練習と“夢への挑戦の場所”として、子どもたちの笑顔と元気の戻る場所、“夢と希望の場所”となるよう願ってのことです。

今だから、話せる私の話（被災当時の心境）です。皆さんがご存じの通り、ルーテル学院はフェイスブックに被災状況の写真を多く掲載しました。私も校長という立場上、掲載する写真の確認はしました。しかし、私はその写真現場に足を運ぶことはできませんでした。今思いますと、すぐに現場を確認し工事の段取り等をすべきですが、授業再開に向けたエネルギーを自ら失うような気がして、足を運ぶ勇気がなかったかもしれません。

以下の写真は、被災状況の写真です。改めて、掲載させていただきます。

①本館中央屋根部分、煙突落下



②礼拝堂パイプオルガン



③礼拝堂、アーチ部分の破損



④礼拝堂、2階ギャラリー部分。煉瓦が倒壊



このような被災状況の中でした状況の中で、子どもたちが一日でも早く普段の生活に戻れることように、授業再開に向けての取り組みを、教職員一同で多くの会議を持ち意見を交わし考え、歩調を合わせ前に進んで来ました。

授業再開までの流れ。

- (1) 4月29日(金) クラブ活動の再開
- (2) 5月2日(月) 学年ごとに分けて、一時登校(1時間程度)
目的:「被災状況の確認」、「心のケア」、「学習サポート」

※やっぱり、子どもたちは学校で友達や先生方と会い、無事と今生かされていることに感謝したい。

- (3) 5月9日(月) 全校生徒登校、避難訓練・全校集会。全員で祈りの時を持つことの喜びを感じた一日。
- (4) 5月10日(火) 授業再開

授業再開後の行事や会議。

- (1) 5月10日(火) 「90周年計画委員会 エカード会館」
- (2) 5月21日(土) 「高校3年進路説明会・学級懇談会」、「PTA総会 大学チャペル」
- (3) 5月31日(火) 「臨時理事会・評議員会 “熊本地震 被災状況と今後に向けて” の報告」
- (4) 6月3日(金) ~7日(火) 「高校総体出場」

ここで、復旧・復興に向けた工事の様子を述べさせていただきます。

① 玄関周辺の補修工事



② 埃まみれの中での廊下壁の補修工事



廊下には、モルタル（セメント）が散乱し、埃まみれの修復・復旧工事となりました。

本館のほとんどの壁部分が煉瓦でできています。壁のモルタル分を取り除き（ハツリ）、左官さんが再度モルタルで補強し、塗装する補修工事をして頂きました。（玄関部分は赤レンガ）

とにかく、子どもたちを普段の生活に戻すために、「学校に行って学ぶ！」というごくごく当たり前のことができる環境に一日も早くしたい。工事関係者の皆さまには、「急いでください！」は口にしませんでしたが、工事責任者である現場監督に、「早く子どもたちの夢と希望の場所にしてください。お願いします！」とつぶやいておりました。

復旧工事の優先順位、「1. 教室の補修と学習環境の整備」、「2. 体育館の補修」でお願いしました。

約2週間で、安全性（数値と裏付け）と安心感（心と見た目）を子どもたちに届ける環境が整いました。工事内容は、安全性と安心感の両面から以下のことをやって頂きました。

- (1) 肩から上部分の壁崩落の危険性を取り除く工事とその補修（モルタル修復と塗装）
- (2) 見た目で見える亀裂部分の補修（接着剤の注入と塗装）
- (3) ゆがみ・破損部分の補修と取り換え

③ 体育館補修の様子



④ がれき・モルタルなど産廃の運びだし



何故、この復旧・復興工事があの人手と部材不足の時にできたか？九州建設さんの働きによるものです。九州建設さんはその前身は「辻組」さん、91年前に九州女学院を施工された業者さんです。得丸社長の一言という社長命令、「熊本で地震が発生した。すぐに、ルーテル学院に行きなさい！」1回目の地震が起きた直後のことです。15日の朝には、九州建設さんの姿が本館前にありました。16日未明には2度目の震災。「感謝」です。休みもなくお働きになられた工事関係者の皆様には、頭が下がります。感謝です。

ルーテル学院は、神様に守られ、皆さまに支えられている学校であることを再確認、肌で感じました。

今現在の復旧・復興工事は、下の写真にありますように、礼拝堂と校舎外壁（外壁落下防止のため）を重点的に行っています。また、本館4階部分の第2視聴覚室・ピアノ練習室・会議室の工事も進めています。

①礼拝堂の修復の様子（天井アーチ補修の足場）



②本館西側つま部分の補修工事



今ここに、大きな傷を負いながらも華麗な姿を見せる本館があるのは、10年前の創立80周年時の周年事業“本館耐震リニューアル”のお蔭です。本館が、手を施すことのできる状態で残されたことに大きな感謝です。

私たちは、感謝と勇気を持って、次の100周年へ向けて、

創立90周年記念式典・感謝会 “ミッション「愛の教育 これからも」”

☆試練を乗り越え、希望を持って、**豊かな命と愛を持って前へ進みます**

＜創立90周年記念式典・感謝会＞ ※祝賀会を「感謝会」として、開催

記念式典：2016年10月3日（月）10時 熊本県立劇場コンサートホール

感謝会：2016年10月3日（月）18時 ホテル日航熊本

を開催する運びとなりました。

ルーテル学院は1926年、91年前に、ここ熊本に九州女学院として蒔かれた種が成長し花を咲かせ、大きな実りの時をこれからも迎えられるように、キリスト教主義教育のミッションスクールとして、

建学の精神・教育理念「キリスト教に基づく人格教育を行い、未来に希望を与える慈愛に満ちた人間性を育みます」を実現できるよう教育に励みます。

学院聖句「わたしが来たのは羊に命を得させ しかも豊かに得させるためである」を励みに、教育の業に努めます。

校訓・スクールモットー「感恩奉仕」（“神の愛と恵みに感謝して 神と人にと仕える者となる”）を社会で実践できる人を育みます。

教育目標として、「個性の育成」・「共生能力の育成」・「国際性の育成」をその根幹とします。

日々の教育実践として、“愛の教育”の実践（建学の精神に基づき教育目標を達成する教育実践）、「一人ひとりを大切にする」（命に触れ、きびしく、温かく、親身になり、心を育てる教育）、よき隣り人として「寄り添う教育」（思いやりの心を育て、愛情と愛着を持ち、面倒見がいい）に努めてまいります。

熊本地震を経験した子どもたちが、神の教えのもとに、ルーテルでの学びを通して成長し、やがておとなとなり「地の塩、世の光」となる社会人になることを祈り願います。

ここまで、多くの方々から、祈りに覚えて頂き、大きなお支えを頂いたことに感謝します。

この感謝をミッションスクールとしての教育実践につなげてまいります。

これからも、祈りと共につながりとお支えをお願い申し上げ、報告とさせていただきます。

創立 90 周年記念事業の「“学院はひとつ”、ルーテルで集い共に学ぶ、笑顔」の写真

